＜第9回学生との対話集会＞

平成20年度の対話集会は、12月９日（金）、午後４時25分より、五十嵐キャンパスの総合教育研究棟、B351講義室において行われました。以下は、約２時間に及んだ対話の記録です。その雰囲気を再現するために、口語体のままにしてありますが、一部、分かりにくい部分は手をいれてあります。また、原則として、答える立場の教職員については役職名を省いた上で名字を入れ、学生の方は、匿名になっています。

また、この集会の場でお約束したことについて、場合によっては、検討の結果実行不能であると判明したということもあり得ますので、この点についてあらかじめお断りしておきます。

【津田】

それでは定刻になりましたので今日最初に学生との対話集会が発足してから、今回は９回目になるのですけど、全学科目に対しての対話集会としては５回目になりますが、学生と教員との対話集会を開催したいと思います。ではまず会を開く挨拶をその生田先生から、全学教育機構長からお願いいたします。

【生田】

みなさんこんにちは。今日皆さんからは、日ごろ大学でいろんな勉強したりしているなかでいろんなご意見があろうかと思いますけども、直接私たち教員と事務の方もいらっしゃいますので一緒にあなた方が持っている、日頃思っているいろんなことを自由に出していただいて、われわれもそれに対して話をしながら、要はより良い大学生活が送れるように改善できるのは改善したいというふうな、真摯な気持ちでこのこれからの対話をしたいと思っています。

各学部からも先生がたが出てきていらっしゃいます。それから全学教育機構の先生方も出ておられますのでたぶんほとんどのことは、もちろん事務の方もいらっしゃるので、皆さん方が疑問に思っている、多分ほとんどのことについてお答えすることができるんじゃないかというふうに思います。また、なかにはできないものもあるかもしれません。そのときは是非一緒に考えていくようにお願いしたいと思います。２時間弱くらいですかね、よろしくお願いします。

【津田】

どうもありがとうございました。それではですね、司会をさせていただく大教センターの津田といいます。今これからどのような手順で進める感じかご説明したいと思います。まず皆さん方から出していただきました事前質問の配布資料がお手元にあるかと思いますが、それについて大体３つくらいに分類をいたしまして、まずは大教センター長の齋藤先生のほうから最初の３つの分類といいますのは、０、１、２についてと、３、４、５それから６以降のその３つの分類ごとに回答していただきまして、それで討論ということにさせていただきたいと思います。それではまず大学全体の話とそれから新学務情報システムについて、これから成績評価についての部分についての回答をしてもらいます。

【齋藤】

これ録音してるの？

【津田】

はい。

【齋藤】

今録音してるの？と聞いたのはですね、記録が残るのが嫌だとかじゃなくて録音じゃなければ生声でしゃべりたかったんです。それでは０、１、２でしたっけ。お答えしますが、ただ最初にお断りしておくとですね、津田先生は全部回答できるとおっしゃってたんですが時間の問題でちょっと大変かなと思っています。そして最後のほうの学部の問題は私たちでは分からないこともあるので学部の先生方にもお伝えしますし、それからこちらにいらしてる方がお答えくださるかもしれません。それを最初にお断りさせていただきます。

それから最初の基本的な考えを述べさせていただきたいんですけども、この会はとても大事なもんだと思っているんですが、皆さんからいただいた質問なり要望なりでもいまや手遅れというものがございます。例えば教室が暑かった寒かったとか、先生の声が小さいということも書かれても、それはその場で言わないと間に合わないので、大事な会なんですけども、教師も人間ですから、まず言っていただければ大体の先生は応えてくださるだろうと。それでだめなやつがいたら私に言ってください。それをお願いしたいと思います。

それから次に設備の問題なんですけども、いくらここで要望が出ても数が少ない場合は当然なかなか聞けないし、数が、例えば皆さんが一生懸命相談して数が多かった場合でも、例えば学内にカラオケでも作ってくれと言われても、それは大学の在り方と比べて無理じゃないかとお答えせざるを得ないと。だから数が多くてもそういうことになることはご承知ください。まあ、カラオケができたら私は多分行くとは思うんですけど、それはまた設備とその大学の在り方は別な問題なのでそのあたりはご理解をいただきたいと思います。

まず０番、大学全体の話ですけども、本質的な疑問としてですね、対話集会開催されてるけど、改善されてないじゃないかという不満もいただいてますが、例えば改築の際にトイレを改善するとかですね、あるいはこの部屋、暖房は個別のスイッチになってますね、１番のところで暖房をつける時期をもっと早くしてほしい、…多分これは改善されてますね？ということで、いろいろ皆さんからいただいて改善されているということをまずご理解いただきたいと思います。それから喫煙とか車の入構の話等はまた設備のほうでお話したいと思っています。

という具合で全部行けないんですけど、例えばGPAという制度があるゆえに学生はGPAをあげることを優先して講義の数を削ってしまうという傾向があるという質問を０の下から４番目にいただいています。これはですね、GPAという制度がないために学生が成績を気にしなくて講義の数をむやみに増やすことよりはこちらのほうがいいのではないかと。数を絞って勉強していただくほうがいいのではないかと思ってこういう制度になっています。他のところ、学部のところで聞いていただければいいところもあると思いますし、学力の低下が目立つというのはそうなのかもしれませんが、頑張りましょうとしか言えないという質問かと思いますので、０番についてはここまでにさせていただきます。

次に新学務情報システム、もう新じゃないかもしれないんですけど、こちらについてですが、これはわれわれも改善を図っていきたいと考えています。ですから是非具体的に意見を出していただきたくて、もっと充実させるのはどこか、じゃあ勝手が悪いってのはじゃあどこか、まあ、授業の検索と書いてあるんですが、授業の検索のどのあたりかというのを是非寄せていただいたら情報部門の先生もいらしてます。こちらも毎回検討していますので是非具体的に寄せていただきたいと思います。１番に関してはここまでかと思います。

さて２番の成績評価、ここがなかなか頭の痛い問題かと思っているんですけども、まず教員のほうが成績等について理解が少なくて皆さんにご迷惑おかけしているのもあるのではないかと認識しています。多分私もそうですけども、われわれが大学生だった頃にはあまり成績というのは気にしない時代だったと思うんですが、そういうことがよくないかと思っています。ただもちろん、それをそのまま放っているわけではなくてFDというかたちで啓蒙活動をしておりますので、例えばシラバスも昔に比べれば成績評価等に関して詳しく記述されるようになりました。ですから今後の変化、その展開を是非見ていただきたいと思っています。

それから成績を早く出してほしいという意見も出てたかと思いますが、これについてはですね、成績を出す期限になるとメールが回ってきます。教務課の方から来ることもあればそれぞれの学部の学務から、そうやって職員の方がですね周知徹底を図っています。ですから制度としてはそうやって遵守させてるんですけども、あとは個人個人の教員の認識かと思っています。皆さん方も是非そういう先生がいらしたら研究室のドアをたたいて催促していただければと思います。

もう少し本質的な問題、あるいは大学の在り方についての問題の話をしたいと思うんですけど、１ページ目のところに、英語の先生、もしあとでご意見あったらお話し頂きたいんですけど、１ページの一番最後に、同一科目において一定の評価基準を決めるべき、教養の英語などは先生により教科書や評価が違う、不平等という意見をいただいています。成績評価に関して全世界的に英語能力って何なんだろうか、そういうことも照らして授業をつくっていこうという動きはおそらく世界的にあると思います。新潟大学もそういったことを考えていろいろやってるんですが、やはり高校とは違うわけですね。英語の場合は最初は統一教科書かな？と思います。違いますか。それぞれ先生方の個性があってこそ大学って面もあると思うんですね。つまりそれぞれ専門にされてるのが違って、そこをもとに英語を教えていられるわけで、それはそれを全部同じ教科書で塗りつぶす、塗りつぶすという言い方良くないでしょうか、同じ教科書でやるとそれはそれで個性がなくなるというか、大学らしさがなくなると思うんですね。そうなると最後はシラバスに書いてあるところで教科書は何であって何を教えて、成績評価はどうなるのかっていうのを学生と教員の間で、契約というとちょっと大げさかもしれませんが、していただいてそれに基づいて授業に出ていただいて、そのうえで不公平であったとかあるいはもっと統一しろという話かなと、そういうふうに思っています。ですからさらに言うならシラバスがひどい先生とかあるいはシラバスに書いてあったことをしないなんてことがあれば是非教務課に言ってきていただければ、私もいろいろな学生からの意見を教務課の方に引き継いで対応していますので、もしシラバスがあまりにもひどいということであれば是非言ってきていただきたいなと思っております。

これは２ページだったでしょうか... ごめんなさい、１ページなんですが、単位を落としそうな人に危ないことを伝えるべきだというふうに書いてあったんですが、このあたりは大学生は自己責任だと思いますので、自分のほうで是非判断していただいて、危ないと思えば勉強していただくと。更に言うならば危ないと思っていても試験になればできる学生もいるわけですから、教員がむやみに「おまえ危ない」と言うのも、これもどうかなと思っています。

それからこれはできればいいなと思ってること。答案を返してほしいという要望が（２）のほうにも入っていますけれども、かなり多いようです。ただ時間的

に考えると、特に2学期の場合に、2月の最初なりに試験をして、試験の採点がおそらく2月半ば、その時点で結構皆さんもう帰られたりしたり、そもそもクラスがなくなっていたり、ですから同じ学生が集まってるゼミ等ではそれができるかもしれないですが、なかなかそれは難しいのかなと。ただ先生方によっては来てくれたら見せるよということをやってらっしゃる方もいるので、制度としては今のところないというお答えになりますが、それぞれの先生で努力されているということはお話しておきたいと思います。

そして自分の成績がそのクラスの中でどのくらいかという成績分布については学務情報システムで出るようになっていたと思います。それを使って自分の能力等について理解していただくのもいいのかなと思っています。また授業の進め方ということで言えば、能力が分かればいいということであれば、途中で小テストなどをやっていただいて、それでどんどん学生さんの力が分かるように、ひとつひとつ、そのあたりも啓蒙活動はしています。

それから出席について、むしろ皆さんから出席しないで試験だけ受ける、それでその学生が良かったりするということに対する不満というのが結構出ています。私も突然パフォーマンスをやってそれを見ていない人はそのときの授業は出席にならないとかですね、ホワイトボードに突然無意味な数字を書いて、後でその書かれた数字を出席表に書きなさいと言って、最初だけ出て出席だけもらって帰っちゃう学生とかを防止してるんですけど、なかなかこういうことを考えるのは楽しい反面、悲しいです。それででもやってるんですけど、制度としては講義に5回以上出なかったらその単位はなくなるという制度を利用しています。その出席しない学生ですね。それでそれぞれの個別の先生がその出欠に関してどうするかというのはそのシラバスに書くというかたちで制度を決めています。そして更にテストは出席しないと結構解けないようなものをつくっていこうとかですね、授業内容に合ったテストを出そうというようなかたちでの啓蒙活動をしています。

そこまでは制度としてできるんですが、いただいた問題のなかに制度の問題と、個人個人の問題ってのがどうしても絡んできます。もしかしたら、出欠についての細部ですが、もしかしたら講義にあまり出席しなかった人が本当にできる人で出なくてもできちゃったかもしれない。それはもう個人の問題になってしまうんですね。あるいは先生が出席しなくてもできるようなテストを作ってしまったかもしれない。そこはもう個人の問題になってしまう。ということで制度としては5回で単位なし、で、授業内容に合ったテストを作ってくださいというような啓蒙活動をしている。そしてシラバスにそういったことは明記してくださいというかたちで、われわれは保証しています。以下、その制度と個人の問が絡む問題もあると思いますので代表ということでご紹介させていただきました。

とりあえず2番はここまでにさせていただいて、あとで直接皆さんからご意見を聞きたいと思っています。

【津田】

それでは今大学全体の話とですね、それから新学務情報システムと成績評価についてという、全体的な回答をいただいたわけですけれども、皆さん方の中にこれは是非とりあげて回答してほしいというものがありましたらまず挙げていただけないでしょうか。どうしても回答してほしい、ありませんか。最初に話を、口をあけるというのは大変かもしれませんが。この大勢の中でね。何かありません？なんかいろいろ書いて、例えば齋藤先生のほうから新学務情報システムについて具体的にもっと質問をしてもらいたいという要望がありましたけども、例えば人文3年の方はもっと学務情報システムの内容をもっと充実させてほしいというふうに質問をしているんですけど、これ具体的にどういうことなんでしょうか。人文の方、いらっしゃいますか。なかなか声が出ないですが。学務システムの勝手が悪いというのはどういうことなんでしょうか。

じゃあ、お二人だから、まずこちら。

【学生】

多分これ書いたの私だと思うんですけど、なんか6ページのところにも掲示板だけでなくメールを送ってほしいというふうに書いてあって、なんかたまに、例えば人文の最初のガイダンスで後で掲示するので見てくださいとか言われて、そういうことは一応学務情報システムは一番最初自分のページ開くと出ますよね、連絡事項が。ああいうふうに出していただける情報もあれば、そこにはちょっと載せられないので、載せられないというか、それは多分学務の方のなんか都合なんじゃないかとちょっと思ったんですけど、できないので掲示板に貼るので見に来てくださいとか。で、人文、私は情報文化なんですけど、あまり人文棟に行く機会がないんですよ。ほとんど授業が（総合）教育棟でやるので。そうするとあそこまでわざわざ見に行って、でもあるかないかも分からない情報を毎日チェックしに行くかといったら多分いかないと思うんですけど。それを多分変えてほしいという話です。はい、お願いします。

【津田】

先生のほうからご回答をしていただけるんでしょうか。

【木竜】

部門のほうで学務情報システムを担当しています木竜と申しますけれども、一応その学務情報システムにはそういう共通連絡機能というのを持ってまして、で

学部であるとか学科であるとか、あるいは特定の個人を対象にして送り出せるようには一応なっています。これがまだ有効に活用されてないというのはわれわれも気づいてまして、それで12月から１月にかけてこの五十嵐キャンパス、更に旭町のほうも含めてわれわれのほうが出向きまして、こういった機能を是非ともどんどん有効活用していただきたいということを、これからキャンペーンをはる予定にしておりますので、今後学生さんの希望に沿って、特にこういう休みのある期間ほど、ああいう共通連絡機能はすごく機能すると思うんですね。ですからそういうようなことがまだよく理解されてないようなところがあって、職員の方に教育します。そういうところは積極的に使っていただけるようにキャンペーンをはっていきたいと思っています。

【学生】
それを使うと携帯から見れるっていうんですね。

【木竜】
携帯のほうにも転送するように管理が設定してあれば携帯でも見れます。

【津田】
はい、じゃあ。

【学生】
授業を、履修するときにあの情報システムをよく使うと思うんですけど、その例えば11日まで履修をこのメールでやってくださいとか、その授業の最初に始まる日の前日に、よく大体大人数でやるときによく止まるというか、動きが遅いっていうのが一番環境が悪いというか。最近はよくは記憶にないですけど。

【木竜】
最近良くなったと思うんですが、というのはハード的にメモリーを増やしましたから。

【学生】
ありがとうございます。あと、言ったかもしれないんですけど、掲示板だけのやつとパソコンだけのやつというのが情報であると思うんですけど、掲示板だけで貼ってあるやつと、メール上でしか提供してないものとがあるので両方やってほしい。

【木竜】
そうですね、私もそう思います。実際に先ほど申し上げましたように各学部の教員の方、職員の方、その学務情報システムのよさをよく理解していただかないといけないところもあって、やはりどうしても従来の掲示物で掲示するってところがまだあると思うんですね。で、学生は１日１回そこを見るべきだという考えがあるんですよ。

ところがやはり最近の学生さんはいろんなところで講義があるとか、やはり長期の冬休みとか夏休みとか、あまり来ないときでも掲示したいというか情報を伝えたいというときもあったりして、できれば積極的にこの学務情報システムを使って、共通連絡事項を流していただきたいというようなお願いで今、回ろうとしています。

【学生】
あと、自分の科目とか書いてあるページを開くといろんなのがあるというか、その、自分はあまりパソコンが詳しくないんで、その機能的に何か多分いろいろあると思うんですけど、あれが何に役立つとか、すべてを使えきれてない感じがあるので、何か説明書的なものがほしい。

【木竜】
学生向けに学務情報システムの利用手引きというものが配られてるのはご存知ですか。

【学生】
多分あるんでしょうね。

【木竜】
まず冊子で配られているということと、それからウェブ上のサイトのところでPDFファイルでおいてありますので、そこをダウンロードしていただいて見ていただきたいということ。それからさらに分からないことがあったら質問を投げていただきたいと思っておりますので。どうですかね。

【学生】
ありがとうございました。

【津田】
はい。

【荻】
よろしいですかね。さきほど人文学部のほうから質問がありましたので、まず私、人文学部の荻といいますけども、私その学務情報システムを使ってなかったんですけど、最近ようやく使うようになりまして、掲示板をなるべく使うようにしておりますので、どんどん使っていきたいと思います。

それからさきほど木竜先生がお話くださいましたけども、各学部に出向いてお話をしてくださってるということですが、人文学部ではついこの間木竜先生と五島先生をお招きしまして使い方等を勉強しましたので、これから少しずつ改善されていくんじゃないかと思い

ますのでよろしくお願いしたいと思います。なるべくほかの先生にもできるだけ使うようにお願いしたいと思っております。

【津田】
はい、それでは他に新学務情報システムについて何か皆さん方から、何かこういうふうにしてほしいとか、よろしいでしょうか。この点についてはよろしいでしょうか。

では次の成績評価について一応大体齋藤先生のほうからご回答いただきましたけども、でもこれだけはどうしても答えてほしいというものがありましたら、手を挙げて質問していただきたいのですが、ありませんでしょうか。何かご回答についてとかないかと思うんですけど。工学部の学生さんからの質問がかなり多いんですけど、工学部の先生、何か、補足のご回答ありますでしょうか。

【鈴木】
工学部教員の鈴木です。工学部の成績評価につきましてはシラバスのほうに定期テスト、それから講義の小テスト、こういう評価になる項目をどれくらいの割合で評価するかというのをシラバス等に記載しております。それからそれ以上の細かいことは、例えばレポートをどのように評価するのか、例えば点数で評価するのかABCで評価するのか、そのようなそれ以上の細かいことはシラバスのほうには記載していませんので、そういう細かいことが必要であれば担当の先生に直接聞いていただきたいと思っています。

それから出席ですね、出席ということもありましたけども工学部におきましては3分の2以上出席した学生を評価対象にするということになっています。このことはさきほど齋藤先生がおっしゃった5回欠席すると対象にしないということと矛盾しないわけですが、ですので出席というのは評価対象とするかどうかというと判断外になりますが、出席点というのは基本的に与えておりません。ですので10回出席した人も15回出席した人も出席点でいえば同じ扱いということに基本的にはなります。ただ担当する先生によりましては、毎回毎回小テストというかたちで、評価を行う先生も多いんですけど、その場合は出席していなければその小テストの点数は加算されてこないだろうということになりますので、ある意味では出席点という扱いにも捉えられないこともないだろうと思います。基本的には出席点はないということで、成績評価の対象にするかどうかは判断外になるかということをコメントしたいと思います。以上ですけどもよろしいでしょうか。

【津田】
はい、ありがとうございます。それでは他に先生方でこれだけはという補足説明をしておきたいというのがありましたら... ありませんでしょうか。よろしいでしょうか。

じゃあ次の3、4、5の教員の教育方法の改善について、それからカリキュラムについてですね、それからいろいろアンケートについて回答をお願いします。

【齋藤】
はい、カリキュラムについてのところがかなり長くて全部お答えできない気がしているんですけど始めたいと思います。まず3番の教員の教育方法の案件についてですが、プリントの作り方が雑です、なんて出ると、「もしかしてあなた私の授業に出ましたか？」と、ちょっとドキっとしてしまうんですけども、そういった授業方法の改善についてはですね、FDというものをやって、今それぞれの先生方がうまくなるようなことを図ってます。

例えば新任の先生なんかには授業を実際やっていただいてそれで意見を言うようなことをやっていますし、あるいはアンケートのことは後ろにありますけども、そのアンケートで学生の満足度が低い先生には、なぜかを考えてくださいというのを出したりしています。そんなかたちで授業の内容を高めるという啓蒙活動はしています。その一方で、先生の話すスピードが速すぎてついていけないというのは、これは是非そのときに言ってほしいなと思いますので、言っても速い人がいたらまた私のところに来ていただくと、そういうことになるのかなと思っています。

それから先生方の出勤状況が分からないため、何度も研究室に足を運ぶことになり困ったと。学部で先生方の出勤状況を把握してほしいというのがあるんですが、おそらく学部の教務のかたがたもそれを知りたいと切に願ってると思うんですが、これについてはメールでですね、「いついつ空いてますか」ということを先生に尋ねていただいて、それで行ける時間を確かめてほしいんですね。ですからいきなり行ったらそりゃお互いロスですから、そういった文明の利器を使っていただきたいと思っています。

それから物理学の難しい授業の話とか教科書が分かりにくいとか、一応シラバス等にも書いていただいてそのとおりに授業をやってもらうようにこちらは改善を図っていますが、これもまたもし何かありましたら直接言っていただかないと、ということでしょうか。

続いて先ほど時間がかかるだろうと申し上げたカリキュラムなんですが、まず私たちもたくさん授業を出してそれぞれの学生のみなさんたちのニーズに合った授業を開きたいと思っています。それは間違いないんですが、ただお金の問題があって教員の数は限られます。そして多忙化とかですね、あるいは最近ではお医者さんの話で労災扱い云々かんぬんですごい忙しくて亡くなった話もありますね。まあ、そこまで教員が授業をやっているかどうかは別問題として、どうしても

その人的資源の問題があります。だからみなさんがそれぞれ全員満足できるのはおそらく残念ながら出せてないのかなというのは反省ではあるんですが、それの方策はあとでお話したいと思います。

そして時間割りに関してどうしてそうなっているのとか、かなりとりにくいという話をいっぱいいただいているんですが、これに関してはいわゆる専門科目を担当している先生が教養に関する科目も一緒に出してますね。となるとそれを交通整理しなくちゃいけなくなって、どうしても時間割り窮屈になってしまうんですよ。例えば理学部の先生が自分の学部の学生に出す時間帯と、そうじゃなくって、一般の学生向けに化学なり生物なりを教える時間をなんとかして工面しなければならなくなっちゃう。で、それでガイドラインというものを作って、多分逆にそれが教養の授業が一部に集中しすぎというような意見をいただいているのかと思います。

だから本音を言うと、学部の専門の科目はそこにはいれないでいただいて、それで教養の科目はそこに入れればとれるかと思っているんですが、なにしろこれだけ学生数があって教員もたくさんいますので、なかなか交通整理ができてないという点はお詫びしたいと思います。ただわざとやってるわけではないということは理解していただきたいと思っています。

さて、じゃあ、他にどういう解決があるかということなんですが、皆さんのアンケートのなかで人文系であったり人文社会学系であったり、いろんな言葉で表現されてるんですが、おそらく人文社会教育科学系と書きたいんじゃないかというふうに思ってるんですが、それがとりにくいという指摘をいただいてます。で、逆に文系の方から理系の科目がとりにくいというのはあまりないんですね。ということはつまり、工学部なり理学部なり農学部なりで、専門の科目がワッと埋まってるが故に人文社会教育学系の教養の科目がとりにくいんじゃないかと理解してるんですが、どうなんでしょう。で、それに関してなんですけども、ひとつはですね、実はあまり専門の科目が入ってないところを探して、工学部だと水曜１限とか木曜の３限わりとないんだなと私思ってるんですが、どうなんでしょう。そこを探してそこに移ってくださいということを言ったりしています。そういうことはやっています。

ただしそれだけではやはり足りないんですが、皆さんご存知かどうか分からないんですが、例えば人文学部で開講されてる専門の科目は、他学部の学生がとれば教養の単位になるんですけど、それは認識されてますでしょうか。で、もちろんなかには難しいのもあって、他の学部の方から聞いても分からないのも当然あるんですけど、一応分野水準のコードをつけて３、４といったかたちで易しいものを他の学部の方でも分かりそうなものというかたちで示してあります。現に私の科目は結構理系の方が人文の専門にきたりしてますけども、そういうこともしていますので、これはいろんな先生がいろんな授業を出しているのに、学部でとじているとせっかくの授業が聴けないということで全学的に授業を開放ということでやっていますので、是非そういうのも利用していただいて他の学部の科目を使って人文社会教育科学系の単位にするとか、あるいは更にそこから興味がひろがれば副専攻ということもあるわけですから、是非その自分の学部指定のところだけでなくていろいろな科目をとっていただきたいなと思っています。

それから受講の受付期間についてはここでは２週間程度設けられているとか云々かんぬん、いくつかご意見いくつかいただいてるんですが、これについては最近学務情報システムでアンケートをとってみました。受付期間とか始まるまでの長さとか、始まり終わりの時期が適切かというので、で、それによれば５％程度の回答率があったんですけど、それほど今の日程に不便は感じていないというものが出てきたものですから、あまりその動けないところなんですが、さらにもしご意見あったらあとでいただきたいと思います。

そしてまた最初はお試しの授業みたいな感じで、それで２回目くらいからは正式ってのはどうかっていう意見も確か、ちょっと私の解釈で言葉を変えちゃってますけども、そういうのもいただいているんですが、ただ法令上は15回というのが正規の回数なんで、制度上それは保障しなきゃいけないんです。で、もちろんその中にある個人が１回目出られなくて、というのはそれは５回まで欠席OKと、なんか変な言い方ですけど、なのでいいんですけども、制度として１回目はお試しで、あと14回というのはどうしてもできないですね。だからもしそういうかたちにすると16回になって夏休みが遅くなることになってしまうわけで、これはおそらく教員も学生も望まないような気がするんですけど、一応その15回の確保ということでそうなっています。だから試せるんだけどそれは個人のレベルでやっていただいて、それで授業を決めて履修していただこうと、こういうふうになっています。

それから医学部云々のことで、いくつかいただいていて、これは医学部の方が書いてるからそうだと思うんですが、要するに旭町ということじゃないかと思っています。医学部優先するかしないかを書いてほしいというのがあったんですが、多分それぞれの先生にそれを書いていただくというのは無理なので、逆に優先するものは優先と書いてくださいになるんですね、こういうものは。それでだからそれが書いてないものは優先してないというふうに思っていただくのがいいのかなと思っています。ただ旭町が大変なのは分かっていますので、それに関しては遠隔システムというのができまして、こちらの授業を旭町で見ることができる部屋が作られています。こちらで授業をしていて旭町のある部屋に集まっていただいて、見ていただくと。

それで今そこで授業をしていただく先生を募ったりしていますけども、まあ、そういったかたちでなんとかそれもいろいろな不備を…不備じゃないですね、医学部の大変さを埋めていきたいと思ってるんですが、いかがでしょうか。

その次で、カリキュラムの（2）、授業内容、授業数についてお話したいんですけども、英語云々、ドイツ語3回、英語1回の英語云々に関してはもしかしたら後で英語の先生からしていただくのかもしれませんけど、お願いしたいと思うんですが、時間割のことについて、1限、4限に必修授業が多いのは何故か、これはさきほども申し上げたんですが、専門の科目と教養の科目との絡みでどうしても指定が入ってしまって、そこに入っていってると考えられます。それから教養科目は逆に最初から授業を行ってもらいたい、先ほどはお試し1回で残りが本当という感じでというのがあったんですけども。で、最初から授業を行ってもらいたいというのは学生として当然だと思います。ただこちらからの都合を申し上げると、教科書を買ってこない学生がいたりですね、あとは出るかどうか分かりませんと言われたりと、いろいろあるので、結局その中間で制度としては15回確保されていて、1回目、例えばガイダンスの回であってその内容がどうするかは先生方には任されているといったとこだと思ってます。

それから4ページの一番上ですが、初修外国語においてベーシックをやっただけであまり詳しいことまで勉強できないのであまり履修する意味がないのではないかというふうに書いてあるのですが、もし制度として、こんなベーシックなんて意味がないということであれば検討したいと思うんですが、個人として自分は意味がなかったということであれば、もっとやっていただくか、やっていただいて意味のあるものにしていただくという話になると思うんですね。で、一応大学としてはベーシックは意味があるということで、あるいはアンケート等も使ってそういうふうに判定していますので、そういうのではないのをやりたい方はベーシックⅡをとるなりスタンダードをとるということで対応していただきたいなと思います。

そしてさきほど他学部の講義がそれぞれの教養の単位になるというお話をしましたが、それについては当然他学科、他学部の講義を受けやすい環境をつくってほしいということ、これはそのとおりだと思っています。ですからこれについてはそれぞれの学部の先生方にも、ここにもいらしてると思いますが、周知させていきたいと思っています。

それから前年度まで存在した講義が次年度に突然なくなるということがある、ということがあったんですが、これについては、例えば先生が他の大学に転出されるとかですね、そういった問題があってなかなか一概にはできない点があるんですが、で、実は私も来年度、今やっている科目を1個なくすんですけども、ただそれをどこで報告するかと。前の学生だけに言うとそれは不公平だと思うんですよ。そうなると来年度、非開講リストとかそういうものを作って出すという話になると思うんですけど、それがどれだけ決まってから明らかにすれば役に立つのかなと。つまり皆さんが履修登録をするときにそれが分かっていれば、じゃあ今年のうちにとっておこうとなると思うんですが、転出とか辞めるとかそういうのが分かるのはもっと後なんですね。だからちょっと申し訳ないんですけども、なかなかそれはできないのではないかなと思っています。

次の3番の授業開始時間についてですが、教養の授業が一部に集中しすぎているという話は、むしろ集中させてるんですね。そこに専門の授業を入れないでとりやすくしてるつもりなんですが、それが逆にかえってマイナス面を生んでるのかなと思っています。ですからこれについてはいろいろ検討してみます。個人的にというか、授業開設部門というところで調べてもいますので、もう少し考えさせてください。開始時間を遅くしてほしいということはですね、後で副専攻の話にも出てきてるんですけど、副専攻の時間を確保するために昼休みを長くして、あるいは夜間の問題もあったでしょうか、そのために前に比べると30分早くしているんですね。ですからその点、…15分ですか？

【荻】

その前は9時くらいだった。

【齋藤】

…相当早くなっているんですが。あと、これは私の個人的な聞いた話ですけども、確か弥彦線かなんかだと、今の時間だと本当にものすごく早く来るかちょっと遅れるかしかないと聞いた覚えがあるんですけど。ただ、まあそういったようなことでその時間になっているとお答えせざるを得ないんですけど。

それから副専攻制度についてなんですが、まず人文に難しさがあって、そこに書いてあるんですが、実は、言っていいんですかね。…実は人文に限らないんですが副専攻が自課程の科目6単位まで重複可能というのは来年度からなくなります。だから今の人ごめんなさいという感じです。

【佐藤】

後で答えます。

【齋藤】

じゃあ、後でご説明を。人文については分かりにくいということについては実はガイダンスでも分かりにくいので、分からない時は私のところに来てくださいというふうに言っていて、個人で対応したらおかしいんですけども、実はそれほど難しいということで、や

らせていただいています。

それから副専攻が、授業土日にやってほしいというのがあるんですけども、変な言い方ですが、副専攻は主専攻あっての副専攻なんですね。つまり主でやっている人たちがいる科目に、そうでない人が出るから副専攻なのであって、ここに土日に副専攻科目を出すっていうのは主専攻の人が土日に行くってことで、そうすると結局結果的には、多分これは主専攻の科目があって副専攻をとりにくいからこういうのが書いてあると理解しているんですけど、結局土日に副専攻だけを出すことはなくてですね、そこは一緒に主専攻になってしまうので、そうなるとやっぱり取りにくさは同じなのかなという理屈なんですが、分かっていただけたでしょうか、言ってること。土日に副専攻を出すということは、制度上おかしくて、まあ、一応昼休みに出してますけどね。Q科目は出してますが、主専攻があって副専攻なので、土日に副専攻を出すということは主専攻も出すということになるんですね。なのであまり土日に出すことは改善にならないのではないかなと私は思っています。

5番までやってよかったですかね。授業アンケートの話はさきほどもちょっとお答えしたんですが、書かれた意見の反映の仕方は、まずはそれぞれの先生で満足度が低い方にはそれをフィードバック、それを戻して、何故そうなっているかというのを書いていただいたりしています。それからデータを学内で公開しています。今ウェブで公開していると思いますので、それはさらし者にしてるわけではないのですが、それぞれの先生がどのように評価されてるか見ることができるというかたちでアンケートを反映させていただいて、あと行動はどうとるかというのはもちろんそれぞれの先生の対応なんですが、制度としてはこういうものを保障していると、そういうお答えになるのかなと思います。以上です。

【津田】

はい、ありがとうございました。それでは今の齋藤先生の大体の説明に対して先生方のほうで何か補足説明がありましたらお願いしたいと思いますが。まずは教授方法および態度について何かございませんでしょうか。よろしいですかね。カリキュラムについてのところで、かなり医学科とか保健学科とか学生さんたちの質問も多いんですけど何か。

では、授業内容、授業数についてということで外国語教育の先生で何かコメントしていただけませんか。

【平野】

英語教育企画開発室というところに所属している平野と申します。週にドイツ語が3回で英語が1回という比率はおかしいと感じるとか、英語のコマ数が少ないという苦情はよく耳にするのですが、ドイツ語が多いかどうかは別として、英語のコマ数が少ないのは、ご存知かと思うんですが、国立大学が国の機関から独立行政法人に移った、その前後に英語を担当する教員の数が大幅に減ってしまったんですね。そのために前のカリキュラムで出していたような潤沢なコマ数を提供することが残念ながらできなくなりました。それで今のような週、標準的には1コマという、まあ、学生のみなさんからみても私たちからみても非常になんというか遺憾としか申しがたい思いを抱くような状況になっています。

それを補う意味で、例えばコンピューターを使った教材、この導入には1千万単位のお金がかかるんですけど、そういったものを何年かかけて導入して、普通の対面式の授業を補うようなかたちでの教育、学習の機会を提供しようと努力したりしています。

ところで、さきほど前のところでのお話だったんですが、教養の英語などは先生により評価や教科書が違う、不平等という指摘がありました。さきほど齋藤先生がおっしゃったように、大学の授業というのはすべて高校とかみたいに、教授内容が一律であるべきだとは思いません。個々の先生方の持ち味というのを活かして、それでバラエティに富んだ授業をやっているのが大学の教育の重要な面じゃないかと思ってやっています。

とはいえその一方で、やはり一定の到達目標というのを具体的なかたちで明示する必要があると考えて、現在のカリキュラムになったのと同時に、全学英語ハンドブック、かつては副教材といいましたが、そのようなものを出すことによって少しでも学生のみなさんに分かるようなかたちで授業内容の、ある程度の標準化を図ろうという努力はしていますが、いまだに試行錯誤を繰り返してる段階なので、まだみなさんの満足のいくかたちにはなっていないとしたら、それはお詫びして今後に期待していただきたいと思います。以上です。

【津田】

ありがとうございます。それでは他に補足説明はよろしいでしょうか。授業開始時間につきましては、開始時間をもっと遅くしてほしいというのも毎回出てきているんですけども、図書館なんかは早くて時間がありすぎる人たちのために早めに開館したりするようにして、そういう対応をしたりしています。ちょっと補足をさせていただきます。

では副専攻制度について。はい。

【佐藤】

副専攻制度のところの担当しております全学教育機構教育企画部門というところの佐藤と申します。副専攻のほうのガイダンスなどを、前後期はじめのほうにやりまして、少しでもわかりやすくなるように努力は

してるんですけども、まだまだかと思います。

たださきほど6単位云々の話がありましたが、現在もう少し学生諸君に分かりやすいような副専攻のシステムにしようとして、制度そのものを少しずつ変えようとしているところです。またいろいろと間違いが多すぎるというのは、ひょっとすると、ガイダンス用の資料、またはみなさんに配っている資料のことかと思いますので、21年度の資料に関しては間違いなどをチェックして、少しでもミスのないものを作ろうとしています。さきほどから話題の、6単位、これは主専攻と副専攻を兼ねて単位認定できるのが6単位というようなかたちで規則がつくられているわけで、それがかなり分かりにくいという、アンケート調査の結果も出ていますので、なんとか学生諸君に分かりやすい方向に変えようといっています。今現在、もう来年度から変えますという約束はできませんが、分かりやすい方法に変えていくという努力を現在進行中といえますので、なるべく来年度から分かりやすくしたいと思います。以上です。

【津田】

はい、ありがとうございました。それでは授業評価アンケートについてちょっとコメントをお願いします。

【森井】

全学教育機構の教育支援部門を担当しています、森井と申します。授業評価についてさきほどの齋藤先生に補足させていただきます。このアンケート、制度ではございませんのですぐに皆さん、アンケート結果に反映される性質ではないということを前提にお話を聞いてください。それとさきほど齋藤先生からお話ありましたように、ウェブにあげているアンケート結果、実はこれ非常に重要な意味を持ちまして、授業が各先生で個別なものではない、オープンなものであるというのが共通認識としてあって、これは教員側の意識なんですけど、授業をオープンに運営したらどうかということも言われているんですね。全学的に認識が高まりつつあります。

それで少しずつ重要なアンケート、反映されてるんですけど、ただそれだけでは効果でてきませんので、今われわれ教育支援部門のほうで、まずアンケート結果を活用して、全体的に教育のレベルのボトムアップですね、いい先生をあげるというのは自分でできるのでいいんですけど、ちょっとまだ学生さんに不満がある先生方に対して、底上げをしていくという方向で取り組んでいます。総合評価ということで出てきましたんで、そういったかたちでどういったところに力をいれれば授業が魅力あるものかというか、そういったことを宣伝して、各先生方に意識を持ってもらう、そういう取り組みをしております。

ただそれだけですと、まだ皆さん学生さんが個別の、先ほども意見ありましたけど、成績評価のつけ方がおかしいとか、そういう個別の問題もありますので、これは総合評点で分かりますので、何点か、まあ、平均で低い先生方はわれわれが個別に呼び出して、どういうふうに問題があるのか、あるいはどういうふうに改善に取り組んでいただけるのかとか、そういったことをディスカッションしながら、ちょっと時間かかるんですけど、そういうかたちで進めております。

ですから皆さんの意見がすぐに明日明後日に反映されるわけじゃないんで、ちょっと長い目で見ていただいて、数年とはいいませんけど、少しずつ授業の改善につなげていきたいと思っていますので、長い目で見ていただきたいと思います。ただ部局によっては活用していただいて成果出ていると思いますので、そういったとこはわれわれも全学的なアンケート結果の活用に使っていきたいと思います。

【津田】

授業評価アンケートについて理学部の学生さんと工学部の学生さんから質問がきているんですけど、理学部なんかは、何か対応されてます？それのご説明をしていただきます。工学部は確か何かやってらっしゃると思うんですけど。

【立石】

理学部の学務委員長をしています立石といいますが、授業アンケート、私遅れてきまして申し訳なかったんですが、全体の流れ分からないんですけども、これはGコードに関するアンケートということでしょうか。

【津田】

いや、全部。全学科目、授業アンケート…

【立石】

理学部の科目に関わって専門科目に関わったら、そのアンケートの結果をいかす方策についてはですね、どのみちとっているわけですけど、Gコードに関しては理学部としては特別に方策を取ってるわけではありませんので。

【津田】

では、理学部の専門科目ですか。

【立石】

理学部の専門科目です。これは理学部の専門科目についてもそれぞれセメスター等アンケートをとらせていただいて、そしてそこに書かれたアンケートに関わって、学生さんから出された意見を個別の先生方がどのように改善するかということを、現在はそれぞれの学生にかえすシステムをとっているはずです。もちろん高く評価される先生ももちろんおられるわけです

けど、そのなかでもこういったのを改善してほしいという要望が出てきているアンケートの結果については、それなりの学科の中で議論をするとともに、その議論の結果にもとづいて先生がこのように改善をするという方策を、少なくとも半年遅れになるかもしれませんけども、次のセメスターが始まるときに出すようにしておりますのでそれをみていただいて、もちろん先ほどからお話があるように、短期間にですね、全面的に変わっていくというのはいきませんけども、教授内容の充実に向けては努力をしているところです。以上です。

【津田】
じゃあ工学部の先生。

【鈴木】
工学部での授業アンケートについての取り組みをご紹介させていただきます。すべての学科ですべて足並みがそろってるわけではないので、代表的なものを紹介させていただきますが、まず授業アンケートに対しまして、各担当教官が自己評価を各項目に関してこういうふうな評価をいただいて、これは原因がこういうものだというふうな分析をして自己評価をします。そして次年度に一体どのような改善を行うかという改善計画を提出いたします。それをすべて取りまとめたものを開示します。それを学生さんがご覧いただくことができます。

それから次年度のシラバスに授業改善計画を記載します、こういうことを改善するというのを約束するわけです。それから一部の学科では教育賞というものを設けておりまして、いくつかの項目がその評価対象になるわけですが、そのなかでの授業アンケートが項目として含まれております。レーダーチャートのその面積がいくらになっているかということが教育賞の評価の項目になっていますので、非常に重要な意味をもってくるということですので、教官は授業アンケートをやりっぱなしということではなくて、学生さんのそういう評価、感想に真摯に耳を傾けて授業改善を毎年毎年努力しているというふうにご理解いただければと思います。以上です。

【津田】
はい。以上補足説明だったんですけども、皆さんがたのほうでこれだけはどうしてもこれは聞きたいという内容のご質問ありましたら是非声を上げて。はい。

【学生】
副専攻のことについてなんですけど、さきほど来年からの学生にとって分かりやすいように改善していくということをおっしゃったんですけど、具体的にどのようなことを考えているのかってのは教えていただけますか。

あと齋藤先生がさっきちょっとおっしゃったんですけど、6単位までってのがなくなるって話ちょっと出たと思うんですけど、それって今副専攻を考えてる人にとっては大きい問題だと思うんですけど、今決まってることだけでも教えていただきたいです。

【佐藤】
それでは私のほうから回答します。少なくとも6単位というものを現在委員会にかけて、なくす方向でと委員会にかけているところです。まだ結果は出てませんけど。委員会で議論しているところです。だから分かりやすさという意味では、今回から、アピール文というものを各副専攻の先生から書いてもらってパンフレットを作りたいと思ってます。この副専攻をとればどういうふうなメリットがあるのかということと、じゃあそれぞれの副専攻が独自にR科目、A科目、B科目、C科目、どういうふうにとらなきゃならないかというのが一応規則としてあるものは、もう既にパンフレットのなかに書かれていますけども、それをもう少し分かりやすく書いてくださいと。そして特にこの副専攻だったらどんなメリットがあるのかというのを今後アピールしていただけるようにお願いしてるところです。

で、今までこのパンフレットを各副専攻プログラム1ページでしたけれども、2ページにして活字も少し大きくして見やすくする方向でやっていますし、できたパンフレットはハードコピーだけではなくて学情システムに載せて皆さんにも見えるようにしていきたいと思ってます。これは今現在もやってるはずですので、それらも分かりやすくなるはずです。今現在言えるのはここまでですがよろしいでしょうか。

【津田】
はい、他に何か。はい。お2人いるから、まずはそちらの方のほうが早かったと思います。お願いします。

【学生】
さきほどの人文系の講義が少ないということに対して齋藤先生のほうから人文学部の授業のほうを受ければ他学部の学生がその科目を教養科目のほうで取得できるという話があったんですが、その科目について実際その人文学部のどの科目をとれば教養科目のところに認められるのかどうなのかというのが、学生のほうが非常に分かりにくいと思いますので、学務システムのほうと協力するかたちになると思うんですが、例えば私、工学部なんですけど、Tでコードが始まるんですが、Pナントカ番号のやつがGナントカの、あの、カッコをつけるかたちになると思うんですけど、そちらのほうに該当するというようなシステムを学務のほうで用意できれば学生も非常に分かりやすくできるの

ではないかと思います。その点についてその、提携は可能なのでしょうか。

【津田】
どなたかいかがでしょうか。

【齋藤】
制度としては逆に言えばGとT以外は全部Gに変わりうるということになるんじゃないですかね。

【濱口】
これなかなか学生さんも実は教員側の理解というのも十分進んでない部分があるんですが、今原則としてはすべての授業科目、つまりいろんな意味で制約があってこれがとれないという授業科目以外は、すべての授業科目が全学生に開放されてるというのが基本です。だから逆の言い方をすると、例えば工学部でTで規定されてる科目は自学部の卒業要件の専門科目で提示されてるわけですね。それでそれ以外の科目に関してはどういう科目をこのカテゴリーとして認めるかどうかということは、卒業要件上、きちんと読めば説明されてることになります。

だからむしろ科目の、授業科目そのものの属性として、ある授業科目にHの科目とGのコード両方つけるというようなことは、むしろやりたくない。そもそもそういう性質のものではないというふうにわれわれは理解してます。

【学生】
ありがとうございました。

【津田】
よろしいですか。じゃあ、前の方どうぞ。

【学生】
授業評価アンケートについてなんですけども、授業評価アンケートのオレンジの紙と青い紙と２枚あるんですけど、授業の終わりに、終わる５分くらい前に渡されたりとかして、青い紙に授業の科目名とか名前とか書いて、あと全然書かずに提出する場合がすごく多いんですよ。だからオレンジの紙と青い紙を一緒に１枚にしたほうが、その資源的にも有効なんではないかなというふうに思うんですけど。

【森井】
そういう意見はたくさん出ておりまして、今学期はちょっと時間的にもう間に合わなかったので、来学期から検討したいと。少しちょっと印刷屋さんとの関係とかもありますので、そこだけちょっと難しいとこもあるんですけど、しっかり、まあ、空欄というのが多いので、資源とか考えると非常に重要なご意見なので前向きに検討していきたいと思います。ありがとうございます。

【津田】
それでは他に。はい、どうぞ。

【学生】
授業評価アンケートについてなんですけど、そのさきほどアンケートを反映してとても良い成果が出てるというお話をされたと思うんですけど、具体的にどういう成果が出ているのかを例で言って教えてほしいです。

【森井】
いい結果は声としてあがってこないですね。通常こういうときは悪い意見がたくさん出るもんですから、改善されて良かったよというような意見はなかなか上にあがってこないということで。私自身は把握してないですけど、ただ私を含めて教員全体の意識は変わってきてると思います。具体的なことを言いますと、昔ですと科目というのはその１人１人独占的にやってしまう、属人主義と言ってたんですけど、今ガラス張りになってきて、例えば隣の授業はこんなことやってるとか、教員同士が分かるようになる。これ非常に授業を進めることで大事なことなんですね。レベル上げていく、社会の要請にあったような授業を進めていくかどうか、まあ、少しですけど教員同士がみれるようになった、こういうの利点かなと思います。

それからさきほどちょっと各学部で改善効果が出てきてるとお話しましたけど、この授業アンケート結果は全学の集計はちょっと時間がかかるということで独自の各学科、各学部でまとめてそれを学期末の評価会議ですね、とりいれて、この授業、さっき言ったガラス張りですからお互いの授業分かりますので、じゃあこの授業はこうこう、こうやって、次のセメスターにこう改善しようと、そういう動きが、まだここと、ここというふうにたくさんはないですけど、部分的にはそう出てきてますけどね。さっきも言いましたけど、なかなかいい意見というのは、教員で周知しようとしてるんですけど、なかなかまだいっぺんにこう波及効果がきてないというのが実情ですね。

【津田】
個別には先生方、ちょっと改善されてきてるというので、授業評価をちょっと経年的に見ていただきますとその先生上がってるなとかってたぶん見れると思うんですね。そういうところに出てきていると思います。

他に何かございませんでしょうか。よろしいですか。じゃあ次に、時間もあれですので最後に討論していただきますが、６の施設設備についてよろしくお願いします。

【齋藤】

施設設備についてなんですが、この問題はいろんなのが出ているんですけども、考え方を先にお話ししたいと思います。で、ここに両端があってつまり、お金をいっぱい使って、整備をいっぱいするっていう解決の仕方と、お金がないから人の協力でなんとかそれを対応する捕らえ方があると思うんですね。で、もう1個は規則をがんじがらめにして管理して解決しようってのと、やっぱり人に頼るんですけども、その結果は自由はかなり保証されるという、これが基本的考え方だと思っていて、この2つの間のどこに、どこで解決するかっていうことを結局考えるしかないと思ってます。

例えばどういうことかと言いますとですね、まずセキュリティの問題、セキュリティの問題で、例えば5ページの真ん中よりちょっと上に、学生が平日午後の8時以降、土日にも大学に入れるようにしてほしいという、これと、一番下のところの大学4年生や大学院生はセキュリティカードで大学に出入りできますが、ときどきセキュリティカードを使って出入りする人や、大学から出ていく人に合わせて便乗して出入りする人が見受けられます。これは防犯上問題ないでしょうか、というのをいただいてます。もちろんお金があれば全員セキュリティカードを渡せば解決するでしょう。それから管理の問題でいったら防犯上は、もう本当に入っちゃだめと、一緒について入っちゃいけないといったらそれは解決すると思うんですね。ただ、じゃあそんなお金があるのかという問題、それから、もしかしたら今まで皆さんのなかにも、入れないのに誰かが出てきたから入れちゃう、ラッキーっていう瞬間はおそらくあったんじゃないかと思うんですよ。そうなったときにどこをとるかっていう問題で、例えば制度としてこちらができるのは、メールを流して、最近セキュリティで問題があって、勝手に入る人間がいるから入るときには学生証の提示を求めてくれと教員にメールを流すことはできます。ただおそらくお金がないから制度としては、まあ、あるかもしれませんけど、一番やりやすいのはそういうことだと思うんですね。ただじゃあ、そうなったときに自由さはどうなるかというと、やっぱりいちいち学生証を出さなきゃいけないし、それから教員のほうもメール流しても、じゃあ全員やるかって言うと、面倒くさいといってやらない人もいますね。

となると、結局今なっている状態、そんなに悪くないんじゃないかと私は思ってるんですがいかがでしょうか。もちろんセキュリティは問題あるというふうに皆さんが日々感じておられるようだったら、メールは流せると思います。気をつけてくれということでそれで学生証の提示を求めることはできると思います。

ちなみに昔は銀行のカードで開いたりとかですね、それから下敷きをかざすと開いたんです。だからたぶん今タッチしないと開かないようにしたと思うんですけど、そういう改善も図られているんですけど。

ということで、こういった問題が、考えるとそんなに悪くないと思うんですが、もし、いやいや、危険だと日々感じているというのがあればそれは恐らく改善されると思います。ですからぜひ声を出していただきたいと思います。

それから次はたばこの問題があると思うんです。これも管理するんだったら、もう全館が、今全館禁煙ですよね、もうキャンパス内全部だめというやり方があると思うんですが、ただその、私はまったく吸わない人間なんですけども、健康に害を与えながら税金を払っておられる方がいるわけですよね、たばこを吸うってのは。おそらく、勝手な想像ですけども、気分転換になっていて、仕事をやるときに、それがないとどうかとも思いますけども、おそらくある利点もあるだろうと。そうなるとこの2つの間でどこで妥協するかということになるかということになって、私も入口そばに灰皿があるのは問題だと思ってます。それは絶対通らなくちゃいけないところ、あるいはバス停とかね、そういうのは問題だと思ってるんですが、いい例はA棟の外出たとこの横にありますよね、しかも柵がついていて。あれはすごくいいなと思っていつも見てるんですけど。ですからどこかでは吸えて、なおかつ人が絶対通らなくちゃいけない場所じゃないところに作る、というのが今のところの最高の解決策だと思っています。

一応皆さんのほうから見ると、学生からそんなことに関して意見聴取があったかというと、これはないですね、きっとね。なかったと思うんですが。それからなぜ人通りの多い場所に設置したのか、一つだからどこでもいいわけではない、私もそう思います。それから喫煙所を設置して効果があったと考えているか、全く効果があったように感じないとあるが、私はあったと思います。だって昔はなかで吸ってたわけですからね。それでそれはやめてあそこで吸おうということになってるわけですから、おそらくあると思っています。それが一応喫煙に関しての問題です。

それから先ほどのセキュリティとも関係があるんですが、駐車場とか車の構内の出入りについてですが、夜になると怖いお兄さんが運転する車が自由に出入りするので規制してほしい、とそれがあるの私まったく知らなかったんですけども、もしこれもですね、ものすごい不安を感じておられるという声がいっぱいあったならやっぱり考えるべきだと思います。ただ今のところ聞こえてきてます？誰に聞こう…高橋さん入ってますか？あんまりないですよね。それもちょっと調べないと分かんないですが、それでそういうことに対して、金かけるんなら全面ゲート。それでもう他の車は絶対入らないということは、おそらく金をかければできると思います。

ただそうすると今まで土日だから入れるといって入ってった人もいますよ、きっと。学部学生も。でもそういうのはできなくなるわけですね。だからこれもどこかで線を引かなくちゃいけない問題であって、私は、もう本当に申し訳ないですが、今がそんなに悪いとは思ってないんですけどもいかがなんでしょうか。ただ、もっと駐車場ってのがスペースないので、それよりも作りたい施設がおそらくあるだろう。それから学部生全員に入構票を出すのもこれもおそらく施設的に無理なんですね。

それから自転車に関してなんですけども、工学部の門に自転車が通れる分のスペースの設置というのは、これはあったほうがいいのかと思うんですがどうなんですか、これ。通れないんですか、自転車で、これ。どう意味なんでしょう。

【鈴木】

通れないことはないですね、工学部を代表して言いますが、北門のことをさしてるんだと思うんですけども、まっすぐそのまま乗ったままで通れないという意味だと思う。

【佐藤】

単車、バイクを防ぐためにああいう形にしたんだと思うんですけどね。

【齋藤】

だということだそうですが。それからいくつか個別の問題お答えしたいと思うんですが、F棟が暗い、すぐできるか分かりませんが、それがこのB棟がものすごくきれいになったから感じていることであって、昔はここはきれいじゃなかったです、実は。このへん水の漏れがあったりして、そんなことがありました。

それから講義室が使用中なのかどうなのか分からないで誤って入ったりするという話なんですが、最近そこ見ていただくととわかるんですが、見えるようにつくっていってるのでそれでどうかと思うんですけども。昔多分見えなかったんだと思いますけど。

Gの410が教室は広いけども入口が一つしかないと、それで移動が大変だと。これは私も感じているんですが、しかもGの410はですね、講義するところに二つ口があるんです。だからもともとの設計はおそらくそちらから出入りだったと思うんですよ。じゃあなんでそれをやらなくなってるかというとですね、皆さん分かってると思うんですが、授業を早く終わったりしたときの学生の皆さんの声がものすごいです。今日も私もGの311で授業してましたけど、終わる前からものすごい声なんですね。だからあっち側には研究室があって、静粛って書いてあったりしてるんですね。昔はもしかしたら通れたかもしれない。でもあまりにもうるさいのでだんだんだめってことになって今は3階から4階あがるところになにか立て札出てますね、研究室があるから入るなみたいな感じで。で、そういうマナーで解決、人で解決できるものだっていっぱいあると思うんだけど、残念ながらその410の問題に関しては、おそらくそっちを使ったらものすごい声になってだめなんだろうという判断だと思っています。

以下そういったマナーに近い問題をはさみながらお答えしたいんですけども。例えば教室がなんか汚いとかそういうのもあったと思うんですけど、これに関して言うとですね、例えば業者さんが掃除に入ってます。ですからお金を使えばさらにきれいになるでしょう。ただそれだけでなくて、実は学務部の職員の方もですね、私も授業やって最後5限終わって質問うけたりするといらっしゃって掃除されてます。なんでそうなるかというと、学生の皆さんが、本当ひどいですね、ポイポイ捨ててあるわけですよ。ティッシュとか。だから拾わなきゃいけなくなってるわけで、これもマナーを守ればこういうのに向けられる人的資源なりお金なりを他に回せるわけですね。ですから人で解決できるところは一緒に協力して解決したいと考えているんです。だからこれ皆さんこういうこと聞いたら是非友達なんかにも言っていただきたいんですけども。

そうやって、変な言い方ですが、お金が節約できれば7番の図書館の本が増えるということになるわけですね。あるいはもしかしたら傘立てもできるかもしれない。ただ、まあ、傘立ての問題はどこに書いてあるかというと、ちょっと見失って申し訳ないんですけど、外に置くと盗まれるから中に作ってほしいみたいなのがあったんですけども、そういうのもできるかもしれませんが、まあ、その場合は袋を用意するのがいいかと思うんですけども。6番の最後から2番目ですか。それからですね、「速度おとせ」の看板がぼこぼこでみっともない、撤去を。というのをいただいたんですが、私は確認してないんですが、ただぼこぼこのほうが速度を落とさないとああいうふうになっちゃうぞというのが見えていいんじゃないかというような気もするんですけど、個人的な意見なんですが、もしそうじゃなく、本当にみっともなかったら教えていただきたいと思っています。

ということで、最後変な話になってしまいましたが、このあたりについては是非教員と学生で人的資源で対応できるとこは対応したいなと思うんですが。掃除の問題とか、あるいは傘はそもそも持っていかなければ大丈夫なわけなんで、あるいはタバコに関しても今はああいうふうなルールになってますが、くわえタバコで歩き回ると本当にキャンパス全部禁煙て措置になるだろうし、そういうところを是非暮らしやすい大学を皆さんと一緒に作っていけたらいいと思います。

今1個めくって思い出しました、ごめんなさい。最後一つですが、学務情報システムとか掲示の話、さっきちょっと出たんですが、農学部3年の方から掲示板

の掲示だけでなくメールを送ってほしいということで、これに関しては人文の荻先生からもありましたが、教員に周知を図っていて、だんだんそういうことになるのだろうと思っています。以上ちょっと駆け足でしたが私からの回答です。

【津田】
はい、ありがとうございました。それではですね、何か補足説明等ございますでしょうか。先生方のほうで。図書館の関係とか。図書館の方いらっしゃいませんか。ここの6ページのところの木々が無駄に多い、よってチャドクガが…チャドクガがよくわからないんですけど、増殖につながる、ってのはこれはすごく危険なんでしょうか。危険だったら対応しなきゃならないですね。ちょっとそれはあとでまたこちらでするとして。何か皆さん方のほうで施設設備等についてこれだけは是非具体的に答えてほしいというような…はい。

【大橋】
私教官ですけども、さきほど怖い車が走るってのがありましたけども、夕方4時半を過ぎますとですね、西門にたくさん車が入ってくるんですよ。あれをぜひやめてもらいたい。それからウィークデーより土曜の方が車が多いんです。本当は非常に問題だと思う。だから私は思うんですが、私は来年はいませんが、ゲートを作って、自由に出入りできないようにしたほうがいい。さきほど夜8時に来て入りたいという学生さんがおられたんですけど、大学ほどルーズなものはなくてですね、夜8時に出入りするのはあまりにも自由すぎる。ですから、きちんと夜はこなくていい。それから夜来てアパートにいるより大学のほうが暖房が助かる、で来てる人もいるんじゃないかなと私は思う。ですから、余計なこと言ったんですが、ゲートを作ってほしい。誰でも自由に入れないようにしてほしい、というのが私個人意見です。

【齋藤】
はい、承りましたが、今どうこうできるかはお答えできないんですけど。ただ夜に車が多いのはもしかしたら夜間主コースの学生さんかなと思うんですけどね。

【津田】
じゃあまた参考意見としてちょっと検討させていただきます。それでは皆さん、まだ45分くらい時間がありますので、なんでもよろしいので、是非これだけ集まって頂いてるんですから一人ずつ声をあげて、これだけは言っておこうと、質問していっていただきたいと思いますけど。自由に。先生方、職員の皆さんもいらっしゃってるので答えていただけると、もらえると思いますので是非声を上げて。はい、どうぞ。

【学生】
セキュリティカードについてなんですが、セキュリティカードっていうのは私たちの場合、上の学年から配布されるもので下の学年はもらえないんですが、それはすべて学生証で賄うことってのはできないんでしょうか。学生証をセキュリティのところに挿したら戸が開くっていうのが一番学生にとっては楽だと思うんですが、そちらのほうになることはできないんですか。

【濱口】
技術的にはできます。自然科学研究科の建物は学生証で入校カードがわりになってます。それでむしろ問題はその技術的な問題とかそのお金の問題とかいうよりは、さっき先生がおっしゃったように、本当に20時以降入る必然性があるのかという問題のほうがたぶん大きい。それで大学というところは庁舎のなかに事務部門をかかえて、事務部門にはいろんな秘密の書類、皆さんに公開できないような書類等がたくさんあります。それでそういうところが全部一括の建物の中に入っているので、誰もが大学の中に入れるという状態をつくるわけにはやはりいかないんですね。

だからある程度選んでこのグレードならばこういうかたちで入れる、ということを許可してる水準というのが、今多くの学部では4年生以上は、まあ卒業研究課題研究等の必然性があるので入校は認めるけども、3年以下の学生さんにはそういうかたちのものをやっていないというのが実情だと。

【津田】
よろしいですか。

【学生】
でしたら4年生全員、例えば4年になれば全員入れるとか、そういう選んでカードを配布することはできないんでしょうか。私たちの場合、4年生は全員配布されるわけではないので。一部の人にしかもらえなくて、それを、まあ、電話して「開けてください」みたいなかたちで、やっぱりそうすることしかできないんで、すごい今私たちの主に使っている戸が壊れていて入れない状態で、すごい遠回りして入らなきゃいけないのでご検討願えればと思います。

【濱口】
きわめて個別的なこの建物がどうこうということに関する管理っていうのは、ひとつひとつの部局でやってもらっているので、まあ、それぞれの部局の問題なのかというふうに思います。例えば理学部は多分4年生以上は全部入れるようになってますよね。だからそういうことの取り扱いってのもあろうかと。

【津田】
ちなみに何学部？

【学生】
教育です。

【津田】
あ、教育。教育の先生いらっしゃいますか。

【冨田】
教育では学部全体としては統一規格はないと思います。各先生方、学科等でどう対応するかになってると思います。とりあえず指導の先生にお話をされてみてはいかがでしょうか。

【津田】
それでは他に、どうでしょうか。これだけ皆さんいらっしゃるんですから。是非声を上げて何かを言っていただきたいと思いますが。ありませんか。

【濱口】
津田先生ちょっとよろしいですか。実はさっきから大変興味深く思ってるんですが、一番最初に話題になった学力の低下が目立つと書かれた方がおられて、その趣旨を是非お聞かせいただきたいと思います。

【津田】
はい、じゃあ学力の低下が目立つと、理学部の3年生の方ですけどいらっしゃいます？　はい。

【学生】
これに関してなんですけど、自分は地質科なんですけど、人数を集めて紙を配って意見を言ってもらいました。上の人の意見なんですがこれは。で、普通に考えて自分のときはできたのになんでできないのかな、というのもあると思いますし、あとは昔、学部3年生で習っていたことを今のマスターで習っているとか。まあそれは時間の制約とか何かいろいろあるかもしれないんですけど、そういう点においても学力が低下しているんじゃないかという意見だと思います。

【津田】
先生、何かコメント、それに対して。

【教員】
ちょっと、コメントしようがない。

【津田】
何か他に先生方でありませんでしょうか。
それではどなたかありません？皆さんのほうから。はい、ちょっと言いたそうですけど、どうぞ、ありませんか。はい、どうぞ。

【学生】
工学部の学生です。学部固有の問題のほうに入っちゃってるんですが、9ページの下から4番目くらいですかね。研究室配属の選定方法がGPAの順番や、くじ引きなど、各研究室におけるとなってるようですが、公正を期すべきではないでしょうか。これは他の学部では違った方法でやってるんでしょうか。それとも、どんなふうにやってるんでしょう。いろいろお話をお聞きしたいんですが。

【教員】
たぶん、千差万別だと思うんです。

【学生】
千差万別で、その決められてるとしたら学生のほうとしては研究室配属は重要な問題ではないですか。例えば1年生のうちにこういう方法でやりますみたいなのをちゃんと提示してもらうとかなり嬉しいんですけど。例えばGPAとかをその3年生の、その研究室配属の直前に言われても、もうどうしようもないみたいな。そういうのをもっと統一してもらうことはできないんでしょうか。

【津田】
じゃあ、先生すみません、工学部の先生。

【鈴木】
まず研究室配属の方法についてということなんですけども、すべての人間が、例えば学生であれ、教官の立場であれ、すべての人間が満足する方法というのは、まずあり得ない。どんな方法をとっても必ずどこかに不満があるんですよね。ですから各学科においては、その事情の許す範囲でもっとも公平、公正であろうという方法で研究室配属を行っている。例えば希望する研究室が仮にあったとして、それを制限を設けずに希望する学生全部、希望する研究室に配属したらいいんじゃないかと。まあ、これが一番学生さんにとっては満足できる結果になるかもしれませんが、いざそれで入ってみると一研究室に学生が集中すると一人ひとりに細かい指導ができなくなる。周り回ってみると当然受けられるであろう指導を受けられなくなる。そういう意味だと不利益がおこるわけですよね。そういう点で考えても必ず不平不満が出る。ですので現在は各学科の事情が許すところでの方法で対策が行われているという感じです。
それからあと、その研究室配属をする方法の周知ですけども、特にJABEEを受けている教育プログラム、学科では、研究室配属はこのようにやりますよということを学科のホームページで周知していますので、1

年生のガイダンスの際に、こういう方法で行いますということで話をしています。

で、工学部の場合は学科においてはコース分けって学科もありますが、コース分けにおいても方法は周知してますので、突然これでやるよというふうにはしておりません。JABEEの認定をうけてるところということで、すべての学科がJABEEをうけているわけではないので、そういうふうになってない学科もひょっとしたらあるかもしれません。

ですのであなたの学科がどうなってるかというのはちょっと分かりませんけども、だいたいそういうふうに配属をしてるということで、もしそうでない場合は事前にちゃんと周知するようにということで、お話したいと思います。よろしいでしょうか。

【津田】

よろしいでしょうか。

【齊藤】

あとこちらから、例えばゼミの配属のように1年生のときから、3年生でやることを知りたいという意見もあったということも各学部に伝えておきたいと思います。もちろんいらしてるんですけど。それに関連して人文のとこにあったと思うんですが、外国語の選択が3年生で違うものがあると。それは実は入学前に決まっているのでどこで知らせるかという問題もあるんですけど、3, 4年で制約のあるものについては1年生から周知したほうがいいものもあると、そういうふうな学生から意見があったということは伝えたいと思います。

【津田】

それではまだ30分時間がありますので、個別の皆さんから出してもらっている学部固有の問題について、これならここで回答いたしますというものがありましたら、先生方にコメント、ご回答をお願いしたいと思うんですが。

人文学部の学部固有の問題についてはいかがでしょうか？

【教員】

個別のことですから他の皆さん方にはお話しても分からないんじゃないかなと思うんですけど、いずれも非常に難しい問題なんですね。それで充分なお答えができるかわかりませんが、この中のいくつかを取り上げてみますと、例えばカリキュラムを理解してない教員が多い、これは非常に頭の痛い問題でありますけれども。それとか人文総合Ⅲ種、これ他の皆さんは分かりませんでしょうけど、それの必要性が分からないという。例えば人文総合Ⅱ種、Ⅲ種っていうのは、要するに2年次、3年次、4年次においてとる科目なんですけど、これはまあ、どちらかというと学部に移行したあともその教養科目的な科目としてとってもらう科目なんですね。それをなぜとるのかが分からないということとか。

それと展開Ⅲ種、これは専門科目なんですけども、これを広く他の違った分野の専門科目からもとってくださいということになってるんですね。このへんのところも分からないというようなことが質問としてあるわけなんですけども。

これいずれも共通していえることは、これ私の考えるところでは、というか他の齋藤先生や他の人文学部の先生方もいるんであとでお話していただければと思うんですけども、これはやはり人文学部の特色でもあるんですね。要するに人文学部の特色として、やはり語学教育を非常に重視してるとかですね、それから少人数教育を、まあ、演習のかたちのものを1年次から4年次までやるとかですね。それから専門科目をやっても、やはり教養科目が非常に重要になってくるというですね、そういうような意識のもとでつくられたカリキュラムというのがやはり根本にあると思うんですね。

したがって学生さんが良い学問、生活を学んでもらうために人文の先生方苦労して細かなカリキュラムを組んでいるというところでもって、そのためにこの取り方が非常に複雑になってるということがあるとひとつ思うんですね。単位のとりかたとかね。そのために先生方でもきちっと理解できてない部分があるということにつながってきていると思うんですね。

ですからそのへんのとこにつきましては人文学部、他の学部でもそうなんでしょうけど、人文学部ではアドバイザー制というのも設けておりまして、これ1、2年生の学生さんにアドバイザーがついて、いろいろカリキュラムをどう中心に指導するということなんですけど、ただそこでもおそらく聞いても分からないということでこういう疑問が出てるんだと思うんですね。これは今言いましたように非常にいろいろ積み重ねるということで、カリキュラム自身が、それが単位の取り方が複雑になってるということによるんだろうと思うんですね。それを解消するために各年度初めにアドバイザー会議というのを開いてるんですね。そういうところで先生方に取り方とかカリキュラムのことについてとか、そういうようなFDをやってるんです。ただ毎年やってるんですけども、それでもまあ、理解できない先生方、まあ僕なんかもそうなのかも分かりませんけどね、多いということですので、その年度初めのFDというのをさらに充実させて、より先生方、理解できるような体制にしていきたいというのが、まあ、ひとつお答えできる回答かなと思います。

それから高年次における総合科目Ⅱ種、Ⅲ種というのは高年次における2、3、4年次における教養科目的な科目なんですけども。これはやはり専門科目を3、

４年のときになると専門を勉強することになりますので、そういうところにおいて他のそういう科目を勉強するというようなことによって、まあ１年生では分かりえなかった、専門を勉強したからこそ方法、勉強方法とかそういうことを専門的に、そしてそれぞれ特有の方法に基づいて、学問を自分のテーマに沿って深く研究するわけですけど、そういうときに他の分野、科目についても勉強することによって、１年２年では見えなかったものが勉強できると。特に方法論なんかはそうだろうと思うんですね。そういう意味でも非常に、われわれ教員からみたら役立つだろうということでおそらくこういう科目設定をされてるんだろうと思うんですね。

ですから学生さんのほうもそういうことで専門のことを勉強すればするほど他の科目のやりかたとかなんかですね、そういうことを勉強すると非常に役立つということなんだろうと思いますね。ですからそこんとこはむしろ積極的にとらえてもらって勉強していただければというふうに思う次第でございます。

これは答えにはなってないですけども、まあ、そういうことを感じたりします。そういうようなところですね。それからいろんなことがありますけども、語学のことがいくつかありますけども、これについては齋藤先生とかそれから他の先生方、高橋先生なんかも語学のことについても詳しいと思うんで、そちらのほうを聞いて。

【津田】
だいたいお話をしていただいたので。

【荻】
それじゃこんな程度で。さらに追加であればお答えいただければと思います。

【津田】
何か追加で簡単にありますでしょうか。じゃあ簡単に経済学部の先生、理学部、医学部の先生なにかありませんか。

【山口】
はい、経済学部については自分が学部や学年でどのくらいの位置にいるのかが分からないということなんですが、この給付制の奨学金についてですね、その候補者を選ぶときにその都度一定の単位数を取得していて、GPAの上から何人ということで選んだりはするんですけども、他の学部はどうか分からないんですけど、経済学部に関しては継続的に、学生があなたGPAで何番というかたちで、そのGPAに基づいて学生の順位付けをしてそれをひかえてるというようなかたちはしてませんので、学生から照会をうけても学部あたりのほうではちょっと対応できないというのが現状です。

【津田】
はい、よろしいでしょうか。じゃあ他に理学部だとか医学部だとか、何か先生ありますか。じゃあ、木竜先生のほうから何か皆さんのほうに質問があるそうなので、じゃあ今度は皆さんから質問がないときは先生方のほうから質問をしていただきます。

【木竜】
せっかくの機会なので、学務情報システムを使って今年度から、いわゆるアンケート調査っていうのを頻繁に始めたんですよ。というのはやはり授業評価アンケートの紙っていうのはちょっと時代遅れのような気がして、実は授業評価アンケートというのは先生ごとに学務情報システムを使ってアンケート調査できるんですね。で、あれをやれば一発ですぐ円グラフであるとかいろんなグラフがすぐ出るんですよ。直接教員のほうに情報がいくようになってるんですね。

ただやはりいろいろこういう話を出すと問題だといわれるのは、必ずしも学生さん全員コンピューターを使ってるわけじゃないよとか、それから大学のなかで全てそういったようなシステムがあるわけじゃないし、ということもあって、で、今年いろいろ動かしてみてるんですが、やはり一般的なこのアンケート調査をみなさんからいただける、大体そのアンケートの結果が今１割なんです。つまり大体１万人いると数百人しかアンケートに答えてくれないんですよ。やはり学務情報システムを通じてそのアンケート調査するってことに関しては、一般的な言い方だとちょっと本当言うと無理があるのかなと。どうでしょうね。

例えば授業評価アンケートというのを紙のベースがいいのか、このまま。あるいは学務情報システムを使ってやっていけるのかどうか。そのところをちょっと皆さんの現状といいますか、意見でも結構なんですがお聞きしたいんですけども。簡単に手を挙げていただくのが一番早いと思うんですが、将来的には学務情報システムを使ったアンケート調査、つまり紙のベースをやめにして、コンピューターとか電子媒体を使っての調査にしたほうがいいと思う人、ちょっと手を挙げていただけますか。…やっぱり紙のほうがいいと思う人は？授業の中で。…ああ、まあ同数くらいですね。ということはいろいろ考えてみたいと思うんです。やはり今現在いろいろと学務情報システムを通じてアンケート調査してるものに対しても、それなりのレスポンスがあればわれわれとしてもその方向で動かす可能性を探りだせます。

ただ今現状の今現在のちょっとしたアンケート調査に対して、まあ、これは面倒だといって多分アンケートに答えてくれないんだろうなとは思ってはいるんですが、ちょっと１ケタ台ではですね、ちょっとその学

務情報システムを通じたアンケート調査には踏み切れない。というとやっぱり紙にならざるを得ない。授業の一番最後に紙のベースでやってもらって、当然紙ですから集計に時間かかりますよね。教員がやってるわけじゃないですよね。職員がやってるわけでもないし、外部に委託する場合もあるし、紙でテキストで文字で書いてあるわけだから、これもまたテキストベースに落とすのは膨大な経費と時間がかかるわけですけど、そうなってくると、すぐにここに書かれているからといって反映させていただくには、半年ないしは1年かかるというのは当然分かりますよね。

だからそういう現状を踏まえて、ぜひとも学務情報システムとかそういうものがありますので、積極的な活用というものを皆さんのほうでも、積極的なリアクションで対応していただければそういう対応もできあがってくると思いますので、またいろいろとよろしくお願いします。以上です。

【津田】

はい。それでは皆さん、質問を出されて、自分の質問を出してですね、誰かに頼まれて、その回答はちゃんとうけられましたでしょうか。持ち帰る回答はあります？もし事前質問に出しているのに答えてもらってないというのがありましたら、今のうちですから、是非自分じゃなくても頼まれているとか、出しているのにまだ答えてもらっていませんというの、ちょっと出していただけませんか。はい。

【学生】

理学部の学生です。質問したわけではないんですけど、以前私の学科の先生と話している時に、大学のほうでは副専攻を推していきたいという話を聞いたんですけど、毎年学科のガイダンスの際に副専攻の話は出るんですけども、他の連絡事項と同じような扱いというか、さらっと言って終わってしまうので、そこを、なぜ副専攻を、話したときすごく魅力を語っていただいたんですけど、そういった、大学側が副専攻でせっかくこういう制度をつくっていただいてみんなに副専攻をとってほしいって思っていらっしゃるんだったら、各学部各学科でガイダンスでもう少し説明をちょっと強く教員のほうから熱く語っていただいて、もっと私も、2年の終わりとかに教授とお話したので、もっと早くいっていただければと思ったので、もったいないなと思ったってことと、あと教養の科目のGコードがあるんですけど、多分おそらく1年生の頃ってなんとなく教養はGコードで取っちゃえば楽だみたいな意識があると思うんですけど、せっかくこういった、総合大学にいるのならば、自分の所属する以外の学部の授業をとるっていうのはとてもいい経験になるというか、知識が得られると思うので、そっちの、そのGコード以外にも他の学部も是非とってみなよということを身近な先生方に言われれば、そのそういうほかの学部の授業、3年とかになればみるんですけども、1年の頃はあまりそこまで意識がいかないと思うので、先生方のほうから積極的に、誘導じゃないですけども、そっちも見てみたらいいんじゃないかということを言っていただければ、もう少しそういったせっかくのこういう総合大学を活かせるんじゃないかなと思うので、そういったことも一言加えていただければなと思います。

あと、これは意見じゃないんですけども、これを読んでいて、本当に学生のマナーに対する意見結構多いじゃないですか。これはむしろ私たち学生側が言っていかなきゃならないことだと思ったので、このようなことで悩ませてしまって申し訳ないなと逆に思ってしまったので、こちらでなんとかしていきたいなと思いました。以上です。（ここで会場から拍手　編集者）

【佐藤】

副専攻に関連してお答えさせていただきますが、1年生の新入生のガイダンスのときにわれわれ全学教育機構のメンバーが各学部のガイダンスにお邪魔して、10分ほどのわれわれが作ったDVDを流して、副専攻の分野水準に関するDVDを流して、そして質問にお答えするようにしています。ただすべての学部にお受けいただいてるわけではなくて、やはりそれぞれのカリキュラムの説明時間などの制限がありますので、すべての学部に対してわれわれ出向いていって説明しますよと申し上げて、いくつかの学部に対してはやらせていただいてるんですが、やはりたくさん説明しなきゃならない、時間がないというところは残念ながら行けてない。そういった感じですが、とにかくその中では副専攻がいかに役に立つのかという説明と、分野水準のほうで他学部の科目をとったりしてもこういう分野水準でみなさんが判断すれば、他の学部の科目も同じように理解できますよという説明はさせていただいています。今後も積極的に話しにいきたいと思ってます。

【木竜】

あと学務情報システムの方向からまた言ってるんですけど、今までその副専攻というのがはたして自分がとれるかどうかというのが、なかなかそれだと分かりにくかったので、学務情報システムは頑張りましてですね、そういったようなことがシミュレーションできるようなそういう機能を年度内にいれます。ですから各学生さんたちで、合ってるところとれてるなと思ったら試しにそういう仕組みを使っていただいて、あとどの科目をとったら自分は副専攻とれそうなのかどうなのか、そういうことをここで体験していただければと、そういうふうに思ってます。

【津田】
はい、他に。はい、どうぞ。

【学生】
農学部３年です。後期から自然科学研究科に研究室配属されて自然科学研究科にいってるんですが、自然科学研究科の先生方からメールがきまして、研究室内、建物で飲み会ができなくなりました。これはなぜだめなのでしょうか。それからこの禁酒はいつ解禁されるのかを知りたいです。

【濱口】
誰もマイクとらないので仕方なく…。私の手元にも、どっか学科の事務かどこかから、学内で飲み食いをするなと、そして宴会もするなというような趣旨のメールが全員に回ってます。それは知ってます。それで多分その問題は齋藤先生がここに書かれた問題だと思うんです。変な言い方なんですけど、つまり厳密にやれば飲めませんよね。だけど多分自然研の部屋を全部回って、各先生がたのところに忍び込めばお酒のある部屋はあるかもしれない。そのへんの実情をどう裁くかという問題のような、ちょっといやらしい言い方をしてるんですが、そういう問題だと思います。

それと建前でいえばやはり大学というのはこういう場所ですから、研究室だとかそういうところでお酒を飲めない、宴会もできない、それはそれなりの場所でやるべきだというのは建前として正しいだろうというふうに思います。

だからそのへんの、何が正しいかということを理解していただくというのがまず大事で、そのうえでのお話は先生とよくご相談していただきたいというふうに思います。

【津田】
はい、何か他にございませんか。はい。

【泉井】
学生支援課の泉井といいます。５ページの８番その他の一番最初に年次日程の日程が１、２回増えているのがあるんですけど、これはどうしてもやっぱり大勢の人がくると学部はある程度特定しないと、混雑して私らも学生さんもお互いに困ると思って、ある程度の人数でもって学部を決めています。

実際は、この日来なければアウトではなくて、それぞれ相談に応じています。ただ後になって「私来れなかった」と言われても困りますが、あらかじめ言っていただければ別の曜日にかえることもできるし、昼が忙しければ夜、現に６時以降に来ていただいた方もいます。できるだけ、相談に応じていますので、皆さんのほうから都合悪いというのがあれば言っていただければ対応できます。

それからその裏面の一番最初に、木々が無駄に多い、はちとか、繁殖に繋がるってあるんですけど、今年から私どもはキャンパスの中の環境整備に努めていまして、高いところはクレーン車で、私どもでできるところは、職員が例えば夏の夕方に草取りとか枝切りとかやってます。ゆっくりではあるんですけど片付け始めてますんで、もうちょっと長い目で見ていただくと。で、危ないところがあれば言っていただければ対応しています。

【津田】
はい、ありがとうございます。それではみなさんよろしいでしょうか。まだどうしても言いたい方いらっしゃいます？聞いておこうとか。よろしいですか。だいたい答えてもらったということなんですね。ということで、最後に濱口先生、閉会の挨拶。

【濱口】
最後にとくにお話することは実は用意してません。多分こういう会、最後にお話するべきことは、皆さん方に貴重なご意見をいただきました、そしてその貴重な意見をきちんと受け止めて可能な限りの改善に努めていきます、と言うべきなんだろうと思いますが、どうもあまり個人的には、それほどそういうほどのことでもないなというのが正直なところです。それで実はさっきちょっと質問させていただいたんですが、学力の低下が目立つというのがすごくおもしろくて、おもしろいっていうのは、別に今の学生さんの学力が低下してると思ってるわけじゃないんですが、学生さん自身が自分の学力の低下みたいなことを過剰に意識してる。だけど私なんかとしては、それぞれの学生さんそれぞれのところに立っているわけで、それで今後を考えれば自分の立ち位置を認識したうえで今後に対してどうやって戦って生きていくか、というのが学生さんの今後の立場なんだろうというふうに思ってるわけです。そしてそういうなかで仮に学生さんが自ら学力の低下が目立つというのは、すごく私個人としては興味深く思ってつい聞かせていただきました。

それでぜひこういうことをやりたいと思います。こういうことまた来年以降もやって、建設的にいかしていきたいと思うんですが、せっかく40何人の学生さんにお目にかかっているので、是非アジテーションしておきたいんですが、学生さんたちも来年もこういうことがあると。４年生はもうないかもしれないですが、是非その自分の今の立ち位置からさらにステップアップしていくために、じゃあ大学はどうしたらいいのかということを真剣に考えて、そして真剣にわれわれに対していろいろなコメントをしていただきたいというふうに思います。それでそれに対してわれわれは真剣に対応していきたいと思っておりますので、今後ともわれわれ一緒に学んでいくということで、努力してい

きたいと思います。ありがとうございました。

【津田】
どうも皆さん最後までお付き合いくださいましてありがとうございました。先ほどあるそちらの学生さんが、学生たちのほうも何かをするべきではないかと、いいことをおっしゃってたので、是非そういう希望がある方は大学センターのほうにいらして私たちで相談しながら話をつくろうということをしたいと思うので、ご協力をお願いしたいと思います。来年度も対話集会に是非ご参加くださいますようよろしくお願いします。どうもありがとうございました。

【大島】
先生、一言。

【津田】
一言、はい、どうぞ。

【大島】
学生支援部門の大島といいますが、今ダブルホームを宣伝したほうがいいといわれましたので、一言。新潟大学は卒業して社会に出て活躍できるような学生を育てるというプログラムとして、学生支援GP、「ダブルホーム制によるいきいき学生支援」というのをやっています。これは2年生、3年生でも入ることできます。ここのB棟の4階に学生支援部門のB454号室に来ていただければお話できますので、是非興味のある方は来てください。それからホームページも、学生支援部門のページもあります。トップページからちょっと入るんですが、いけますので、是非のぞいてみてください。すみません。

【津田】
じゃあ、どうもありがとうございました。これで終わらせていただきます。

（拍手）